

1. 大課題名 V 情報処理等先端技術の活用による高生産システムの確立
2. 課題名 リモートセンシングと可変施肥を組み合わせた小麦の精密追肥の実証
3. 試験担当機関 愛知県農業総合試験場 作物研究部 作物研究室
・担当者名 技師 柏木 啓佑
4. 実施期間 令和3年度 新規
5. 試験場所 県内洪積土壌地域の小麦ほ場（刈谷市） 2.8ha（複数ほ場）
6. 成果の要約
調査実施前のため、なし。

7. 目的

当試験場では、ドローンを活用したリモートセンシングにより、小麦の生育状況に応じて最適な追肥量を推定する技術を開発した。本試験では、リモートセンシングと可変施肥を組み合わせた、小麦の精密追肥体系の現地実証を行い、収量・品質の安定効果を確認する。

8. 主要成果の概要及び考察

調査実施前のため、なし。

(試験スケジュール)

2021年11月14日：小麦播種

2022年3月上旬：ドローンによるリモートセンシングおよび可変施肥による追肥
(追肥作業は農家が機械を操作し実施)

3月下旬：ドローンによるリモートセンシング（生育の均一化の確認）

6月下旬：収量・品質調査

9. 問題点と次年度の計画

問題点は調査結果をもとに整理する。

次年度、県内別地域（沖積土壌地域）でも同様に実証試験を行い、本試験の結果と合わせて、可変施肥技術の実用化に向けた現地適応性の評価、および課題の整理を行う。

10. 主なデータ

調査実施前のため、なし。



写真 試験ほ場の様子（2022年1月17日時点、小麦4葉期）